

兵庫県におけるホソバセセリの遅い記録

広畑政巳

筆者は2023年9月10日に姫路市六角でダンドボロギクで吸蜜中の新鮮なホソバセセリを撮影している。



図. ダンドボロギクで吸蜜するホソバセセリ (2023年9月10日撮影)

兵庫県での本種の化性は年一化で、7月中旬の発生が多く、6月下旬から8月上旬にかけて見られる。白水(2006)によると鹿児島県では2化のある地域があることが記載されており、筆者の私信でも鹿児島県の北部では1化であるが、南部の一部の地域では2化が存在するようである。しかし、九州北部や兵庫県の近隣では1化の発生に終わっている。

種は異なるがウラナミジャノメは県下では通常は年1化であるが、発生の早い地域では2化が発生している。筆者は以前発生の早い地域では2化をしているということから、その時期の日長が化性を決めているのではないかと飼育実験をしたことがある。長日の条件と短日の条件に分けて卵から飼育をした結果、長日の条件では順調に成育し2化が発生している。一方短日条件では幼虫の成育が抑制されてそのまま越冬している。そのことは広畑・近藤(2007)で詳しく報告している。日長をどのステージで感知して成長したり抑制したりするのは分からないが、6月20日から30日までは日長が一番長く、それ以降は短くなる。早く発生した地域はまだ長日条件なので2化が発生し、遅く発生した地域は短日条件なので1化で終わっているといえるのではないだろうか。

遺伝子、気象、光周期など複雑な条件で化性が決まると思われるが、このたびの本種の記録は異常発生ではないように思える。一カ月も遅い上に新鮮な個体であるということから兵庫県下でも地域や条件があった年には2化があるように思えてならない。

本稿を草するに当たり熊谷信晴, 高島千洋, 難波通

孝の各氏には地域の状況についてご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げます。

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶 自刊
白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑 学習研究社 東京

(Masami HIROHATA 兵庫県姫路市)